



British Politics Today

2014年4月1日
第3巻 第4号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk
tomo@kikugawa.co.uk

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 UKIP 現象
- 3 オズボーン財相の予算
- 4 「年金受給者と貯蓄者の予算」
- 5 相続税控除額大幅引き上げ構想
- 6 60年代の政治家の性道徳

欧州議会議員 選挙英国区 UKIP 結果

選挙年	議席数	得票率
1999	3	7%
2004	12	16.1%
2009	13	16.6%

1. はじめに

英国で大気汚染の警告が出された。英国内での大気汚染に加え、欧州大陸からの汚染やサハラ砂漠からのほこりのために健康障害が出る可能性があるというものだった。ロンドンでも薄い霧がかかったようだった。かつて霧の都ロンドンは石炭を燃やしたためのスモッグで死者も出るほどだったという。今日のロンドンはそれほど悪いものではない。

2. UKIP 現象

EU からの離脱を求める英国独立党(UKIP)は英国の政治で無視できない存在となったと言える。3月26日に引き続き、4月2日にも行われた UKIP 党首ナイジェル・ファラージュと自民党党首ニック・クレグ副首相との TV 討論でファラージュが圧勝したためだ。2 回目の BBC テレビ討論の直後に行われた 2 つの世論調査ではファラージュが 7 対 3 の割合でクレグを上回った。第 1 回目より差を広げた。

2 人の英国と EU との関係をめぐる討論は 5 月 22 日の欧州議会議員選挙を控え、自民党のクレグが提案し、ファラージュが受けて開催された。支持率の低下で苦しむ自民党が欧州議会議員選挙に向け事態を改善しようとしたものである。クレグはこの討論で親 EU の立場を訴え、考え方の近い人たちの票を獲得できると考えたようだ。UKIP への支持は増大しているが、2 回の討論でファラージュは馬脚を現すだろうと見ていた人が多かった。

ところがファラージュは予想を大きく上回った。ロシアのプーチン大統領をたたえるような発言や、シリアで科学兵器を使ったのはアサド政権ではない可能性を指摘する (UN は断定) などの問題発言があったものの、EU から私たちの国を取り戻そう、移民をコントロールし、既成の支配層を倒そうと訴えたわかりやすい話で多くの支持を得た。クレグは文字通り腕を振るって懸命に話したが、言葉は宙に浮き、説得力が乏しかった。ファラージュは「ニック、みんなあなたを信用していないよ」と言った。この討論に参加し、メディアに取り上げられクレグにもプラス効果があったとみる向きが多いが、その政治感覚のなさが露呈され、むしろクレグが馬脚を現したといえる。

このテレビ討論に保守党と労働党は参加しなかった。参加しても UKIP により大きなメディア登場機会を与えるだけと判断したためだ。討論の視聴率はそう高くないと思われるが、政治ジャーナリストは注目した。ファラージュが計 2 時間の討論で視聴者を説得する能力があることがはっきりしたため、今後の報道に大きな影響があるだろう。

UKIP は 1993 年に生まれた。1999 年に欧州議会議員選挙で比例代表制が導入されて以来欧州議会に議席を持っている。そのメンバーにはかなり極端な見解の持ち主が多かったが次第に「普通の政党」に変貌している。未だに下院議員はいない。既成政党に不満を持つ層を引き付けており、最も考え方の近い保守党の支持層を吸収し、さらに労働党支持票も標的としている。今年の欧州議会議員選挙では保守党が UKIP と労働党に続き第 3 位となるのは間違いない。下院総選挙は欧州議会議員選挙とは違うと言われるが UKIP がさらに大きく「化ける」可能性は否定できないだろう。

3. オズボーン財相の予算

新聞名	ヘッドライン
タイムズ	貯金革命
デイリーメール	年金パワーを人々に
エクスプレス	年金と貯金 みんなの喜び
I	年金受給者と貯蓄者へのオズボーンの予算
ファイナンシャルタイムズ	年金革命 オズボーンが白髪と貯蓄者へ取り入る
デイリーテレグラフ	あなたが稼ぎ、あなたが貯めた
ガーディアン	保守党に投票を、高齢者に向かう
インデペンデント	オズボーン年配者を助ける
サン	サン読者への予算（ビンゴホールへの予算半減など）
デイリーミラー	ハイリスク年金革命

3月19日(水)に予算発表があり、翌日の新聞では上記のようなヘッドラインで報道された。オズボーンのこれまでの予算で最も評価が高く、世論調査の政党支持率がどう変わるかに注目が集まった。いくつかの世論調査でそれまで保守党が4から5ポイント程度リードされていた労働党との差が1ポイントとなり、オズボーン財相の予算が成功したという見方が強かったが、[3月29日の世論調査](#)によると再び元の状態に戻ったようだ。

予算の概要

歳出£7,320億（124兆4,400億円）
歳入£6,480億（110兆1,600億円）

春の訪れ



次期総選挙まで13か月となり、世論調査に注目するのは当然と言えるが、保守党が下院で過半数を占めるには支持率で労働党を10ポイント近く上回る必要がある。選挙区割りも保守党に不利なためだ。

今回の予算は「年金受給者と貯金をする人の予算」と呼ばれた。それぞれの人たちに有利な予算措置が発表されたからである。これらの人たちは特に保守党がUKIPから大きな影響を受けると見ている人たちである。保守党に不満を持つ保守党支持層がUKIPに流れるのを食い止め、これらの人たちの票を獲得することが狙いだった。

なお英国では予算の詳細は発表されるまで「秘密」である。そのため年金制度の改革が予算で発表された途端、年金を扱っている会社の株価が急落し、中には株価が一挙に半分になったところもある。2015年4月から実施されるこの改革を知っていたのは財相や首相らのほかごく一握の人たちだけだった。

英国の経済成長が軌道に乗りかけているが、オズボーンは経済成長に浮かれることなく堅実な財政赤字削減努力を強調した。2014年度の財政赤字予測は1,080億ポンド(18兆3,600億円: £1=Y170)でGDPの6.6%だが、このままいくと2018年度には財政黒字が出る見込みである(参照)。財政責任局(OBR)が経済予測を大幅に上方修正したが、2017年と2018年は下方修正した。生産性の向上は順調ではない。経済成長を確保するために基幹となる輸出産業への政府の直接融資額を2倍の30億ポンド(5,100億円)に増やし、その利子を3分の1削減する。また、投資控除額を50万ポンド(8,500万円)に増額、エネルギー費用削減策などを講じた。

国民にアピールする政策として、この4月から所得税の課税最低限度額は1万ポンド(170万円)となるが、さらに来年4月から10,500ポンド(178万5千円)とする。さらに今年9月からの燃料税アップをせず、さらにビールへの税を若干引き下げ、ビンゴホールへの税を半減するなどの人気取り策を取った。

4. 「年金受給者と貯蓄者の予算」

英国の年金には国の基礎年金のほかに、国や企業で働く人たちが掛けている年金、さらに個人年金もある。今回の年金改革は、基本的に個人の「年金基金」の制限を取り払うものである。

英国では一般に確定給付年金である最終賃金年金 (Final Salary Pension) と「確定拠出年金 (Defined Contribution Pension)」の二つがある。今回の改革は主に後者に関わるものである。積み立てた年金基金 (Pension Pot) を年金受給し始める前に年金 (Annuity) に替えるが、もし年金に替えずに引き出す場合には 55% の税金を課されるため、ほとんどの人は年金を購入していた。この制限を来年 4 月から廃止して通常の所得税のみとすることとした。

利率が低い上、自分のお金のような気がしないという苦情が多かったのに対応するものだが、制限がなくなると一度にお金を使ってしまう人も出ると見られる。副作用として年金 (Annuity) を購入する人が減るため、販売会社は大きく株価を下げた。政府は年金基金の引き出しにかかる所得税で年 30 億ポンド (5,100 億円) ほどの増収となると見られている。

歴史的に低い利子率で苦しんできた貯蓄者には、個人貯蓄口座 (ISA) の無課税限度額が年 15,000 ポンド (255 万円) まで増額されるほか、10% の税を廃止し、政府の割増金付債権の購入限度額を増やし、65 歳以上対象に高利回り債券を発行するなど、これらの人に取り入るものとなっている。

庭の桜の花



雑記

ロンドン南西部のワンズワース区は人口 31 万人の地方自治体である。イングランドで最もカウンスルトックス (地方税) の低い地位を同じくロンドンのウェストミンスター区と競い合っている。そのため過去 6 年間のうち 5 年間、カウンスルトックスを据え置いた。区議会では 60 議席のうち保守党が 47 議席を占め、保守党のリーダーをトップに「内閣」を構成して運営されている。なお、「市長」は名誉職で、議会の議長を務める。

このワンズワース区でも政府の財政削減の影響を受け、財政削減に取り組んでいる。2014 年度の予算は 4300 万ポンド (73 億 1,000 万円) の削減をし、歳出が 5 億 5,470 万ポンド (942 億 9,900 万円) である。キャメロン連立政権が発足して以来、すでに約 8,000 万ポンド (136 億円) を削減してきたが、2015 年度と 6 年度でさらに 5,380 万ポンド (91 億 4,600 万円) 削減する必要があるという。

この削減のため、部の再編成を行い、環境・コミュニティサービス部は公衆衛生部に移され、子供サービス部は住宅部と合併した。このため環境・コミュニティサービス部長と副部長、子供サービス部長と住宅部長がスタッフらとともに人員削減の対象となった。これらの部長級の退職手当がかなりの額になると批判された。

青少年サービスはアウトソーシングされ、図書館の運営も時間が短縮され、民営化された。他の地方自治体の中には費用削減のため事業を共同で運営したり、中にはスタッフのトップであるチーフ・エグゼクティブを共有したりするところもある。

どの地方自治体も財政削減に工夫を凝らしているが、ワンズワース区のようにカウンスルトックスをできるだけ据え置こうと努力しているのは好ましいと思われる。

5. 相続税控除額引き上げ構想

住宅価格が上昇している中、キャメロン首相が、相続税を払うのは金持ちだけにすべきと発言したことで、次期総選挙の保守党のマニフェストに相続税控除額的大幅引き上げが入ると見られている。米国では控除額は320万ポンド(5億4,400万円)、オーストラリアとニュージーランドには相続税がないという。

相続税控除額の引き上げは、2007年にも大きな話題となった。当時の労働党首相ゴードン・ブラウンは、世論調査担当者から有権者の大きな関心であり引き上げるべきというアドバイスを受けた。しかしブラウンは労働党の政策にはふさわしくないとしてアドバイスを無視した。ところが保守党が党大会で控除額100万ポンド(1億7千万円)の計画を発表し、保守党への支持が高まった。そのためブラウンは解散総選挙への準備を進めていたにもかかわらずストップせざるを得なかった。ブラウンは意気地なしと見做され、世論の支持を失う。

保守党のこの政策は、2010年の自民党との連立交渉で取り下げ、実現していない。現在は1人あたり32万5千ポンド(5,525万円)以上に40%の税がかかる。夫婦の場合には、1人が先に亡くなった場合、残った方に遺産の額にかかわらず無税で移るが、もし残った方も亡くなれば、二人分65万ポンドまで無税である。これは2018年4月まで続く予定だ。

ただし、現在の緊縮財政の中では、もし控除額を上げると、財政的な問題が出てくる。100万ポンドとすると年に30億ポンド(5,100億円)歳入が減る可能性がある。まだ緊縮財政を続ける必要のある中で大幅な控除額増額は難しい。



マグノリア

6. 60年代の政治家の性道徳

ロイ・ジェンキンス(1920年11月11日~2003年1月5日)は、かつて労働党内閣で内相、財務相などを務めた後、欧州委員会委員長となった人物である。労働党から離れて社会民主党を設立した4人組の1人で、後にオックスフォード大学の総長ともなる。労働党のトニー・ブレアのメンターでもあった。そのジェンキンスの伝記(John Campbell, *Roy Jenkins, a Well-Rounded Life* (London: Jonathan Cape, 2014))が出版された。その伝記の中で興味深いのは、1960年代、70年代の性道徳である。

ジェンキンスはオックスフォード大学時代にケンブリッジ大学で学んでいたジェニファーと恋愛し1945年に結婚した。ジェンキンスが亡くなるまで58年間結婚生活を共にしたジェニファー公認で、ほかの女性とも多くの関係を持っていたのである。当時は、夫婦の関係が強い絆で結ばれてはじめて情事ができるものだったという。関係者は誰もスキャンダルを起こすことを望んでおらず、みんなが了承していれば問題がなかったというのだ。

当時でも労働党の党首ヒュー・ゲイツケルも妻がおりながら007作家のイアン・フレミングの妻アンと関係を持っていた。また、保守党首相ハロルド・マクミランの妻ドロシーは保守党下院議員のロバート・ブースビーと関係を持っていた。政界やジャーナリストはこれらの関係をよく知っていたようだが、報道されることはなかった。

ジェンキンスが亡くなるまで深い関係にあった二人の女性はジェンキンスの非常に親しい友人の妻たちであった。ジェンキンスの場合、例えばタイムズ紙がジェンキンスのレストランでの食べ物とワインの関係についてコメントすることがあっても、その時同伴していたのが愛人であるなどは報道しなかったという。

しかし、その関係を通じて傷ついた人がいると、よく知られることとなるという。サッチャー時代の保守党閣僚セシル・パーキンソン、労働党閣僚デービッド・ブランケットそして自民党ではキャメロン政権で閣僚を務めたクリス・ヒューンらの場合である。

現在では、マスコミの報道姿勢は異なっており、政治家は迂闊なことをしづらくなっていると言える。

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk